

| | | チェック項目 | はい | 間 | いいえ | 改善目標、工夫している点など | はい | 間 | いいえ | 前回のコメント |
|----------|--|---|----|---|--|---|----|---|-----|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 5 | 1 | 2 | 法定の2倍ほど面積があるが年齢層が高く大人が集まった状態に近い事や教材が多くて手狭となっている。一分散させるため近場で新規に建設中、学習時間外は屋外活動を行うなど工夫をしている。整理整頓！ | 8 | | | 受入定員数を引き下げて調整している。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切であるか | 5 | 2 | 1 | 遠方送迎時に社内目標の職員体制が確保できない。→送迎スケジュールの調整。法定数を大幅に上回っていても対応しきれないことがある。情熱的で健康なスタッフ募集中！ | 8 | | | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | 2 | 6 | | 駐車場の砂利が危険に感じることもある。車椅子の出来やすいよう机の配置などを都度配置しなおすなど配慮が必要。要整備予算確保、1:29:300の法則重視！安全優先 | 5 | 3 | | 車椅子用スロープを設置した。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | 5 | 3 | | 週会議+週カンファレンス、女子職員会議、男子職員会議、月会議等を行っている。つど司会、書記をかねて全職員が発言しやすい様に会議の変化を行った。反面、課題が多すぎて進めなくなることや、介護以外での専門用語が飛び交いついていけないことがある。 | 4 | 4 | | 朝礼、終礼、全体会議、ケース会議を行っている。 |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 7 | 1 | | 昨年度は全保護者よりアンケート回収できたが意見が非常に少なかったため、昨年度の見本を添えさせてもらうことで意見を多く出してもらえた。しかし本年度は提出率が低かった。法令アンケート以外でも各機関連携の聞き取り等を会議に取り上げている。 | 6 | 2 | | クローズBBSで公開 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 8 | | | ホームページトップにて公開しているが把握していない職員もいたため、連絡帳等での告知を行うべきと思われる。 | 4 | 3 | 1 | |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | 5 | 2 | 1 | 県企画指導係や各市の該当福祉課に都度相談し対応している。場合により議員や警察、司法書士等にも相談を行っている。開設時より他事業所や大学生、他種事業問わず見学やボランティア参加を呼び掛けており、僅かだが実績を上げている。 | 5 | 2 | 1 | |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 7 | 1 | | 研修の抽選に受からない、同時開催の研修が多く僅かメンバーしか参加できないことが多い。休業日がなく8時間の生徒受け入れを行っているため、研修内容を持ち帰って勉強会を設ける時間の確保が難しい。 | 7 | 1 | | |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | 8 | | | そもそも保護者との連携を密に行えない場合は利用につながらない、また契約後も協力を得られない場合は休止される権限が保護者、利用者共にあるので方針が合う限り必ず連携を深めつつ担当者のみでなく社内カンファレンスで紐解き作り上げている。 | 8 | | | |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | | 6 | 2 | 標準化されたツールが必要と感じる。→パソコンを使った有料学習ツールのテスト、予算確保と先生の先回り勉強が課題。関連テキストを読み返すなどの職員の成長努力も必要な課題である。個別に特化したプログラムが多すぎて法定の2倍の指導員が居ても手が回らない事がある。 | 2 | 5 | 1 | これといった標準化されたものがないので、標準化されたアセスメントツールの作成を行いたい。 |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 6 | 2 | | 会議や会議前アンケートで定期的に新しい案の募集や研究を行っているが発言しにくい環境があったのも事実→女子会議の設立 | 6 | 2 | | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 8 | | | 日常活動と、日曜課外活動をわけてメリハリを作っている。ホリデータイムや不定期(30分と45分)時間割、帰りの会を導入した。生徒主体の弁論会や生徒のみの会議を誘導したり社会に近い挑戦を試みた。 | 5 | 3 | | 定期的に、ディスカッションなどの特別授業を集団で行っている。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | 7 | 1 | | 具体的な課題設定が出来てないことがあった。課題がないという最も難しい課題を生徒同士で話し合いをするなど試みた。これにより小さな派閥が生まれ、また重なり合うなど一般の学校生活に近い環境を作ることもあった。 | 6 | 2 | | 平日は学習中心、休日・長期休暇は季節に応じたイベントやスポーツイベントを行っている。 |
| 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | 3 | 5 | | 少人数、集団、年齢、特性などをつどグループ分けし支援をシャッフルして行っている。原則的に高校生組と中学生組、小学生高学年組に分かれることが多いが合同で縦割りでの活動も行っている。必要に応じて個別や2者に対してのアセスメントも行っている。 | 7 | 1 | | | |
| 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 3 | 5 | | 前日のスケジュール確認からはじまり、朝礼、オンラインツールによるタイムリーなスケジュール管理及び報告、連絡の徹底を行っている。送迎が多方向に行わなければならないときに朝礼が出来ないことがある。オンラインだけではなく職員シフトの張り出しやホワイトボード多数を活用し生徒自身も把握できるように努めている。 | 7 | 1 | | | |

| | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|---|---|---|--|---|---|--|-----------------------|
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 3 | 5 | 終礼、オンラインツールによる報告とデータ化、振り返り確認を行っている。 20時からの送迎の為、遠方送迎者が参加できないことや天候によりオンライン連絡のみとすることもある。一週会議やカンファレンスに繋げている。 | 7 | 1 | | 終礼時に当日の様子の共有や、起きたことに応じてカンファレンスを開くなどしている。 | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 8 | | 連絡帳とは別に設けられた指導日誌やデータベースの充実化をはかり過去情報が社内共有できるように徹底している。 | 6 | 2 | | | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | 8 | | 生徒に直接指導する職員がモニタリングを行い児童発達管理責任者、相談支援専門員、強度行動障害支援者実践研修終了者、看護職員等がアドバイスを行いまとめ上げている。(管理職に準ずる有資格者ばかりなの事業所なので基本実務も行う) | 8 | | | | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか | 6 | 2 | 常に放課後等デイサービスのガイドラインの先を目指しているのであくまで参考としている程度 | 7 | 1 | | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 8 | | 常に最もふさわしいと思われる者が複数で参加している。家庭連携の面談なども原則として単独では行わない社内ルールを設けている。学校参観などは全職員必ず各校一度は参加する様に心掛けている。 | 8 | | | | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | 8 | | 学校や保護者よりスケジュールの回収を行い、日々確認を行い、タイムリーな交通情報などを共有している。二重チェックでもペースが間違っているなどのミスや急なトラブル時にはドライバー以外が学校等と調整し対応している。 | 8 | | | トラブル発生時の対応はしっかり出来ている。 | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | 8 | | 生涯を通して意義のある療育時間を形成するため、三者協力の事業所理念により家庭連携、教育機関連携、医療連携を原則行っている。必要に応じて医院や医師の紹介や職員が同行することもある。卒業後に主治医を通しての支援を行う事も視野に入れている。 | 8 | | | 看護職員が常駐しているので、受け入れ前、受け入れ後も連携を行っている。 | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | 3 | 3 | 2 | 一部の学校では積極的にできているが特に公立の高校、中学においては閉鎖的で連携まで時間と労力を大幅にロスすることが多くあった。実績及び保護者からの委任状や声掛け、市町からの要請を経て解決したしている。 | 2 | 5 | 1 | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | 4 | 4 | | まだ高校卒業生はいないが、積極的に連携が行える準備は常時行っている。 | 3 | 4 | 1 | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | 4 | 2 | 2 | 必要と思われる研修は受けている。市会議には出来る限り参加し問題定義している。体制保全を何より優先する者と挑戦させたい保護者と同じく温度差がありすぎて連携出来ているとはいえないが常に勉強はさせて頂いている。(立場上仕方ないことも理解できるが言論の自由、公平性を全く感じない) | 7 | 1 | | ※※市は行っていない、担当者が少なすぎる。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 4 | 4 | | 同世代の障害のない子供たちと触れ合っている姿を見かけないので機会が欲しい。 保護者目線で考えると卒業後の目指す進路により必要性を感じないケースも多いと感じる。 真逆の理由で当事業所の中高校生が参加して楽しめる(楽しんでほしい)のは大学の学園祭だと考えている。ただしボランティア活動としては生徒と共にボランティアスタッフとしては参加実績がある。 | 1 | 3 | 4 | |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | | 2 | 6 | 市の協議会がそもそもそれほど機能してない。 開設初年度は「市の協議会が存在しない」と所員が発言したのに翌年には同じ所員が「市の協議会は5年前からある」と言ったり役所都合により存在したりしなくなったりする。 ツールとしては参加しているが当事業所としては意図と効果が全くマッチングしないので相談支援所を立ち上げることになった。 同時にボランティア団体登録(保険加入可能)も行い活動の範囲を広げられるようにしている。 | 4 | 4 | | |
| 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 6 | 1 | 1 | 定期的に(半年に一度程度)面談を行っている。保護者が問題を抱え相談される場合や、職員が異変を感じたとき、受験生、新規の情報共有時は優先させて面談を行わせて頂いている。 | 7 | 1 | | 月一以上の相談会を1年間開催したが参加者が少なすぎた | |

| | | | | | | | | | |
|------------|---|---|-----|----|--|--|-----|----------------|--------------------------------|
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | 7 | 1 | 必要に応じて行っている。 同業者や類似事業者の保護者が多いので釈迦に説法にならない程度に支援と報告を行っている。 保護者ニーズと事業所方針がマッチしない場合は生徒負担とならないよう配慮する場合もある。 | 5 | 3 | | |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 2 | 6 | 代表及び管理者または責任者が行っている。 ホームページでも常に最新版が公開されている。 料金変更時は個別説明も必要に応じて行っている。 | 8 | | 代表者が一任して行っている。 | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 8 | | 各機関(学校、行政、他の事業所)と連携し、放課後等デイサービスの枠にとらわれず出来る限りのことをしている。 | 8 | | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | 5 | 3 | 県内に沢山の保護者会があるので、あえて当社で開催する必要性を現在感じていない。 必要とされる方は既にどこかの保護者会に参加されていたり、入りすぎて迷走してしまうケースを知らされたので当事業所では希望された場合のみ役所などに繋いでいる。相談支援として入っている場合は別。 | 5 | 3 | 議員や学校の先生等を招待したり、老上保護者会などに参加した。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 8 | | | 当事業所内の最重要事項として最速で問題解決に努めているが、謝罪方法を含め価値観の相違や理解を得られない案件が無かったとは言えない。 未解決部分は解決の方法が現時点で無い又は予算の問題で実行できないことが多い。 | 8 | | 市役所や県庁と協議している |
| 非常時等の対応 | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 8 | | | 行事カレンダーの発行、連絡帳、生徒主体でのオープンブログ、保護者向けのクローズ写真ブログを更新している。 現在の状況をより濃いものにするには個別サービスの軽減や受け入れ時間の短縮をせざるを得なくなり全体的な退化と隣合わせになってしまう問題がある。 | 8 | | 連絡帳、公開ブログ、非公開掲示板を活用 |
| | 35 | 個人情報に十分注意しているか | 7 | 1 | | 俗にいうIT経験者が多い中で情報の共有や管理をシステムチェックしているリスクはある。 情報共有と個人情報の流用を、はき違えないように細心の注意を払うべきだと思う。 | 8 | | |
| | 36 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 7 | 1 | | 特化した職員が無期休暇に入ったため、違ったアプローチからのアクションをかけるか、同等の職員の配置が必要と感じる。 | 8 | | 通常利用者以外が参加可能なイベントを増やしたい。 |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っているか | | 5 | 3 | 真裏の会館で頻繁に祭りなど行事が行われているため敢えて当事業所へ不特定多数の人間を招く必要性を感じない。リスクの方が高すぎる。 | 5 | 3 | 保護者への周知が不足していると思う。 |
| | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | 5 | 3 | 2 | 保護者宛てへの周知不足だと痛感した。→予約カレンダーや活動ブログ、参加できなかった生徒保護者へ書籍の案内などを行い補いたい。 | 7 | 1 | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 6 | 2 | | 利用曜日の都合もあり参加できていない生徒が偏ってしまっている。年2回の火災訓練と救急訓練を看護職員主体で行っている。一告知と参加呼びかけの徹底と開催時期の配慮が必要だが大型連休の帰省時期と被る生徒が都度居ることは避けられないので対応を考えるべき。火災以外の防災訓練もするべき。 | 7 | 1 | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 6 | 2 | | 通常の管理者、責任者等の見回りの他、積極的な来客の歓迎を行うことで気を引き締めたり、ニュースの話題などを取りあげ生徒を含め話し合いを常時行っている。 内外含め11台の防犯カメラの設置及び定期的なリアルタイムでのチェックを代表が行っている。 | 7 | 1 | |
| 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | 3 | 4 | 1 | 拘束禁止宣言の事業所指定をうけているため、拘束による安全確保が必要な事態に遭遇する可能性の高い対象者の受け入れは行えない。(交通事故防止や転倒防止など突発的かつ瞬間的な事例は省く) | 6 | 2 | | |
| 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | 8 | | | 夕食の提供や、クッキング、製菓などのイベントがあるので、利用前に必ず保護者からの聞き取りを行っている。 不明な場合は利用と同時に必ず医院で検査してもらうように徹底している。 | 8 | | | |
| 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 8 | | | 紙媒体を発行捺印することを徹底し、同内容をデータベースで保管している。 また同事例の例題などを出すなどの勉強もしている。(内容によっては生徒も参加する) | 8 | | | |
| | | 2019年度 自己評価 | 232 | 88 | 26 | 監修:並河優 | 270 | 65 | 9 前年度ポイント |